

○ 「平成26年度医薬品副作用被害救済制度に関する認知度調査」結果概要<<一般国民>>

1. 調査概要

- (1)調査対象 一般国民(全国の20歳以上の各年代(20代、30代、40代、50代、60代以上)ごとの男女、計3,192人)
- (2)調査方法 インターネット調査
- (3)調査時期 平成27年2月9日(月)~2月12日(木)
- (4)調査項目 医療機関の受診経験、制度の認知率、制度の内容理解度、制度の認知経路、制度の関心度、キャラクターの評価 など

2. 調査結果の概要

(1)過去1年間の医療機関の受診経験について

- ・ 医療機関の「受診経験あり」は 78.8%
そのうち、「通院のみ」は 92.7%、「入院した」は 5.2%、「入院し、別途通院もした」が 2.1%

(2)医薬品副作用被害救済制度の認知率について

- ・ 制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は 21.8% (前年度 21.2%)
<内訳> 「知っている」 5.4% (4.9%)
「聞いたことがある」 16.4% (16.3%)

(3)医薬品副作用被害救済制度の内容理解度(制度認知者ベース)について

- ・ 公的な制度である 54.1% (前年度 49.6%)
- ・ 副作用による健康被害について救済給付を行う 50.5% (45.4%)

(4)制度の認知経路(制度認知者ベース・複数回答)について

- ・ テレビ放送 30.8% (前年度 30.4%)
- ・ 新聞 21.1% (19.5%)
- ・ 聞いた/教えてもらった 19.8% (22.1%)
- ・ 病院・診療所(クリニック)の院内ビジョン 15.9% (12.3%)
- ・ 医薬品の外箱・説明書 14.1% (10.3%)

(5)キャラクター「ドクトルQ」の評価について

- ・ キャラクターの評価は、「好感が持てる」が 72.8%、「キャラクターとしてふさわしい」が 66.1%、「信頼感がある」が 72.3%、「イメージしやすい」が 60.4%

(6)制度の関心度について

- ・ 制度の関心度(関心が持てた+やや関心が持てた)は 79.7% (前年度 76.1%)